

ANNUAL REPORT

— 2021 —



NPO 法人 CLACK / 2021 年度 年次報告書

ABOUT US

私たちについて

Vision & Mission

Vision

生まれ育った環境に関係なく、
子どもが希望とワクワクを持てる社会

Mission

日本中の困難を抱える高校生に
プログラミングによる自走支援を届ける

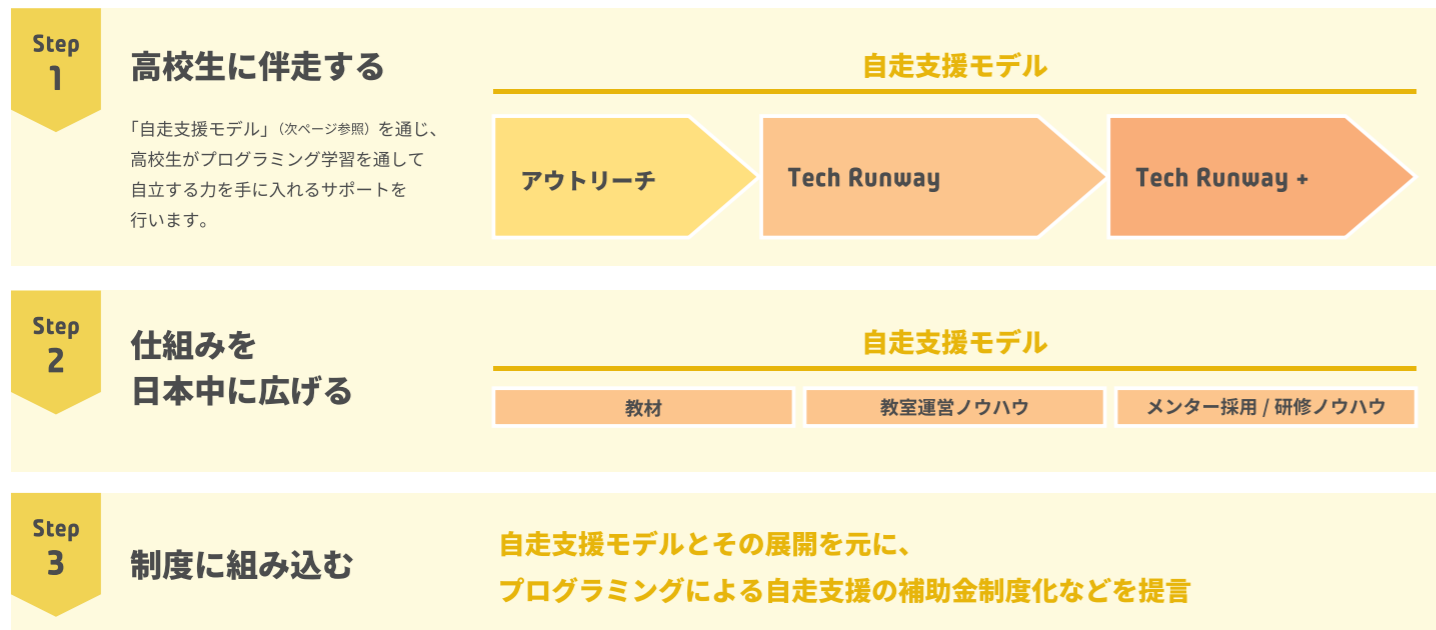
CLACK は、プログラミング学習支援を通して、
高校生が貧困の連鎖に陥る社会構造に変化をもたらすことを目的に活動しています。

彼らには、生活のためのお金だけでなく、自らの視野を広げる経験や、
自らの可能性を信じさせてくれる身近な他者との繋がりが不足しています。
こうした不足が影響し、
自己肯定感や目標を定めてやり切る力が養われづらい状態で育つと、
将来を切り拓くために自ら行動を起こしていくことが難しくなってしまいます。

貧困家庭に育つ高校生がこうしたハンデを乗り越え、
自分の人生を自分で切り拓いていけるように。
プログラミング学習支援とキャリア支援を掛け合わせた「自走支援」を通じて
これからの社会を生き抜くためのプログラミングスキルを身につけると同時に、
将来の展望を描くことを促します。

Our Approach

わたしたちは、3つの段階的なアプローチで、高校生が貧困の連鎖を脱するための社会インフラを整え、
1人でも多くの高校生に困難を乗り越える力を提供します。



ISSUES

解決したい問題

「貧困の連鎖」を断ち切りたい。

日本では、子どもの7人に1人が「貧困」状態*にあります。親の年収は子どもの学歴や将来の雇用形態に影響を与え、大人になったときの年収にも格差が生まれています。この状態は「貧困の連鎖」と呼ばれ、社会の関心は高まっていますが、簡単に解消できるものではありません。



*ここでの貧困は「相対的貧困」を意味しています。相対的貧困は「年間の手取りの中央値の半分以上で暮らしている状態」と定義され、親子2人世帯(ひとり親世帯)の場合、1ヶ月約14万円で暮らしている状態です。

CLACKが注目する「3つの不足」

経済的な困窮がもたらすさまざまな「不足」の中でも、CLACKは特に「経験」「つながり」「考え方」の不足に注目し、これを解消することを目指しています。



経験
学習の基盤となる知的好奇心や学習への姿勢などは幼少期の活動の中で育まれる。経済的な困窮はこういった経験の妨げにもなり、経験の不足が生まれる。

つながり
周囲には親と同じ社会階層の大人が多く、学ぶことや働くことへのイメージが偏ってしまう。また、困った時に助けてくれる大人やロールモデルとなる大人も少ない傾向にある。

考え方
親の関わり方によっては、長期的な視点で計画を立てる力が養われなかったり、周囲と円滑にコミュニケーションをとることが必要だと考えないようになる。消費的な思考になることが多く、さらに困難から脱しにくい状況を生む。

困難を抱える高校生支援の難しさ



CLACK MODEL

CLACKの自走支援モデル

CLACKの自走支援モデルでは、「出会う」「学ぶ」「実践する」「選択する」の4ステップで、高校生が自立するために必要なスキル・知識と、将来の展望を培います。

STEP1 | 出会う

アウトリーチ

高校生にアウトリーチする際には、「出会う難しさ」「行動を促す難しさ」の2つの課題があります。そこでわたしたちは、支援団体と連携して高校生とのタッチポイントを増やしています。

STEP2 | 学ぶ

プログラミング学習支援

プログラミング学習は小さな成功体験を積みやすいため、高校生の自己肯定感を育みやすく、社会で通用するスキルが身につくというメリットがあります。わたしたちは、高校生ひとりひとりの学習をしっかりと支えるために、大学生によるメンター制度を導入。学習につまづいたとき、進路に迷ったときにも、高校生に寄り添います。

STEP3 | 実践する

プレ就労支援

Tech Runway、Tech Runway Campにてプログラミングの基礎を身につけた修了生が、継続的に学習し技術を磨いていくための3ヶ月間のプログラムを設けています。メンターによる家庭学習のコーチングと、助け合いながら学ぶ力を養うスクワッド制度を導入しながら、自学中心でより専門的な内容を習得します。

STEP4 | 選択する

進路・キャリア選択

Tech Runway、Tech Runway+を通して学んだことを生かし、多様な進路選択ができるようになります。進学や具体的なキャリアイメージを描いた就活など、自らの進路を主体的に選び取っていきます。

告知

学校やNPOと連携し、オフライン（チャリン、出張体験会、先生からの声かけ）オンライン（LINEグループ）の両方で告知する

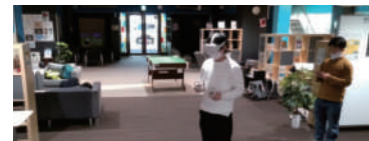
体験会

プログラミングを楽しみながら体験し、支援とつながりやすい状態を作る

■ 主な対象

経済的な理由でITやキャリアを学ぶ機会を得にくい高校生

ドローン/VR体験



プログラミングゲーム



ITを身近に感じてもらい、プログラミング学習へのハードルを下げる

Tech Runway

3ヶ月間のプログラミング学習とキャリア教育で人生が変わるきっかけをつかむ

■ 主な対象

貧困、不登校、発達障害などを抱え、将来的に貧困になる可能性が高い高校生

プログラミング学習



プログラミングスキル IT知識 学ぶ力

キャリア教育



進路観 人とのつながり

進路の選択肢を広げ、精神的・経済的な自立につなげる

Tech Runway Camp

5日間のプログラミング学習とキャリア教育で人生が変わるきっかけをつかむ

■ 主な対象

意欲や学力は高いが、経済的な理由でITやキャリアを学ぶ機会を得にくい高校生



短期間で集中して学び、変化のきっかけとなる

Tech Runway+

Tech Runway、Tech Runway Camp 修了生が3ヶ月間でより専門的な内容を学ぶ（希望制）

■ 主な対象

プログラミング学習支援修了生のうち、ITエンジニアや情報系進学を目指したい高校生

家庭学習中心



自律して学習する習慣

継続して学習する習慣

学習計画の作成



自ら計画を立てる力

実行する力

スクワッド(4人1組チーム)制度



他者との関係をつくる力

相談しながら課題を解決する力

継続的に自ら学ぶ力と、今後のキャリアを見据えた基礎能力を身につける

進学



就職



インターン・アルバイト



CLACK MODEL 3つのポイント



無償提供（全プログラム）



交通費補助



PC支給

CLACKでは経済的理由で学べないということを極力減らすため、2018年の設立時から一貫して授業料・教材費が無料だけでなく、ノートPCの支給、教室までの交通費支給を行っています。ノートPCに関してはプログラム参加中は貸与で、修了したら支給するという形を取っているため、修了後も学び続けることが可能です。

HIGHLIGHT

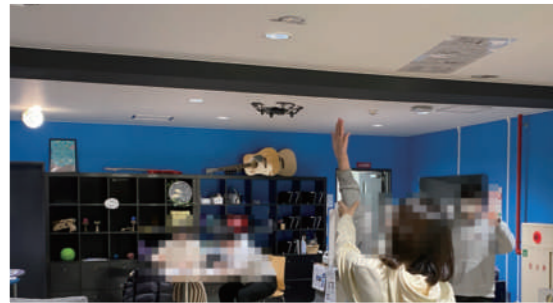
2021年度の活動報告

STEP1 | 出会う

体験会

「プログラミングは難しそう」「パソコンは苦手だし無理かな」と思う高校生でも参加しやすいよう、機械類を一切使わない「RPG（リアルプログラミングゲーム）」という身体を使ってプログラミングの概念を理解するゲームを体験してもらいます。

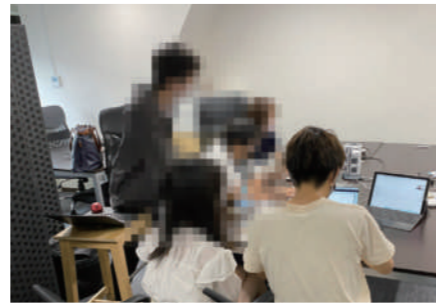
また、「Scratch」というブロックを組み合わせて行うプログラミングでドローンを操作する体験や、最新のVR機器体験を通し、プログラミングで出来ることにワクワクを感じてもらいました。



STEP2 | 学ぶ

Tech Runway

約3ヶ月間にわたるプログラミング講習（週2回）とキャリア教育（全5回）からなるTech Runway。5年目を迎え、卒業生も安定して輩出し始めたことで、身近なロールモデルから厳しい環境にいる高校生が「CLACKに通えば自分でも変われるかも」と思える“希望の循環”をつくり始めました。今年は、1 拠点目である新大阪教室に加え、2 拠点目となる堺教室が開校。新大阪教室では第4,5,6 期生が、堺教室では第1 期生が卒業しました。より質の高い支援をより多くの若者に届けるために、今後さらなる拠点を展開する見通しです。

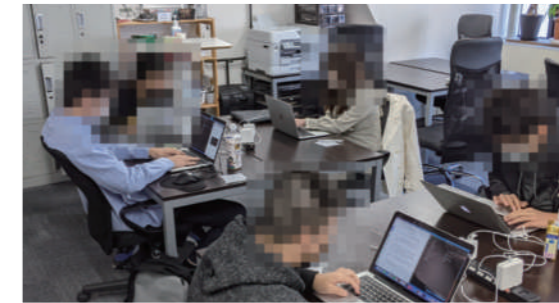


STEP3 | 実践する

Tech Runway +

Tech Runway+とは、Tech Runwayを修了し、ITエンジニアや情報系進学を目指し始めた高校生を対象にした3ヶ月間のコースです。次のステップとしてIT企業でのインターンという実践機会を提供します。

対面とオンラインを交互に入れ替え、週1回のプログラミング教室を実施しています。対面では大阪在住の社会人のエンジニアスタッフが、オンラインでは東京在住のスタッフも加わって、学習をサポートしています。



工業高校、NPO、社協との連携強化

・高校との連携

活動拠点の近隣の高校と連携し、CLACKのスタッフが直接高校生と接する場所を増やしています。また、プログラミングに興味がある高校生がいた場合、先生からその生徒に直接CLACKのことを紹介してもらっています。

・社会福祉協会との連携

大阪府の社会福祉協会と連携し、生活困窮者相談窓口や自立支援相談窓口に相談に来た15歳から18歳までの子どもをもつ家庭をCLACKへ紹介していただける関係性を築いています。

・NPOとの連携

高校生やシングルマザーを支援しているNPOと連携して、対象となる高校生が必要な支援を受けられるようにしています。プログラミングに興味がある場合は、CLACKに紹介してもらい、その他の支援が必要な場合は、支援団体に紹介しています。

大学生研修の強化

大学生メンターはプログラミングや高校生とのコミュニケーション方法、学習方略などを「学ぶ」ことと、教室で高校生と向き合ったり他の大学生講師と振り返りを行ったりする「実践する」ことを3ヶ月間繰り返すこと

メンターが養われる4つのチカラ

・リーダーシップ

高校生のモチベーションを読み取り自らプログラミングを学んでもらえるようにする



・問題解決能力

なぜわからないのか？
なぜ伝わらないのか？
本質に気づき適切な対応をする



・他者への想像力

高校生それぞれのバックグラウンドに思いを馳せ、一人ひとりに合わせた行動やコミュニケーションを行う



・ITスキル

プログラミングの基礎を理解し初學者にわかりやすく伝える



実践機会の提供

・IT企業でのインターン

CLACKの理念に共感してくださった企業さまに対し、卒業生をインターンやアルバイトとして採用していただいています。2021年度は、株式会社夢蜂さまに有給インターンとして高校生2名を採用していただきました。インターンの業務内容は、夢蜂さまが提供している社員研修で得られたクライアント企業の社員データをエクセルで解析し、その結果を先方に報告することです。ITスキルを使ってお金を稼いだり、時給ではない成果報酬だったり、一般の高校生では出来ない貴重な経験を提供できました。時間の調整などに苦労しながらも、インターンの高校生たちは業務に励み成長していました。また実現には至っていませんが、その他いくつかの企業さまからもお声掛けをいただいているので、実現に向かって準備を進めています。



HIGHLIGHT

2021年度の活動報告

STEP1 | 出会う

放課後カフェ

東淀工業高校（大阪府）で2020年10月より放課後に月2回程度、「放課後カフェ」を開催しています。同校には毎年、学校を居場所と感じられなかったり、家庭の事情によって中退していく生徒がいます。そうした生徒たちに対し、放課後の空き教室でお菓子やジュース、ボードゲームなどを置いて自由に過ごせる居場所を提供しています。また、VRやドローンなどの体験もできるようにし、興味を持った生徒はTech Runwayに繋がっています。毎回20人程度の生徒が遊びに来てくれています。



STEP1 | 出会う

コードトレイル

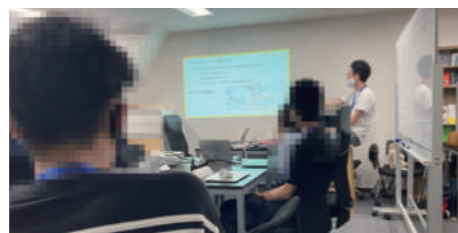
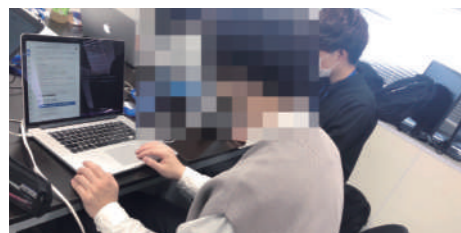
2021年3月から2021年10月まで、完全無料でプログラミングが学べるオンラインコミュニティ「コードトレイル」を運営していました。オンラインを活用することで、関西圏に捉われずに、全国のプログラミングを学びたい38人の10代を支援しました。自習スタイルで各自のペースで学習を進め、分からない所はチャットでメンターに質問をして解決することが出来ます。また週2回オンラインもくもく会を開催して、チャットでは難しい質問を口頭で解決したり、他のメンターと一緒に勉強する時間を設けていました。5月以降は、共催していたオンラインプログラミング教室「CODEGYM Academy」のセーフティネットとしても機能をしていました。



STEP2 | 学ぶ

Tech Runway Camp

Tech Runway Campでは、5日間対面で、高校生のプログラミング学習支援を行いました。プログラミングを学んでもらうだけでなく、情報の集め方、将来やお金・生活に関することを学ぶワークや、大手IT企業の社員さんとの交流機会を通じて、プログラミングを活かして働くイメージを明確にするキャリア支援も行いました。



Tech Runway Campでは、以下のものを無償提供しています。

- ・授業料
- ・教材費
- ・ノートパソコン
- ・交通費（1日800円まで）

初日はドローンやVR体験を通して、ITの技術に触れ、プログラミング学習への意欲を高めます

VOICES

関係者の声

Students / Mentors



Tech Runway4期
参加者

K.R.さん

私はTechRunwayに通ってから、考え方や価値観など自分の内面的な部分はかなり変化し、そして、個性豊かでかけがえのない仲間もできました。中学も不登校で高校も通信制なので、世代の近い人と関わることが不安でしたが、大学生含むメンターの皆さんもとても温かく迎え入れてくれて、プログラミングも分からない箇所を丁寧に教えてくれたのでごく安心して、楽しく通うことができました。最初は、高校生同士が話すことが少なく黙々とプログラミングをするだけだったのですが、次第に賑やかになり、私たち4期生に一体感が生まれ、私はこのメンバーで走り切れて本当に良かったと思います。



Tech Runway6期
参加者

Y.Oさん

私がTech Runwayに通い始めて一番成長したと思う点は、『最初に自分で調べること』ができるようになった点です。私は通い始めは、メンターの方に質問してばかりでした。質問には優しく教えてくれたり、一緒に考えながら進めてくれたりしました。ですが、続けるにつれ、自分の作りたいものが明確になり、自ら調べることで多くの発見がありました。印象的だったことは、企業の方々に直接質問したり業務内容を聞けたことです。学生の間は社会人の方々の交流は少なく、直接質問することはあまり出来ませんが、Tech Runwayに通うことで、普段交流する機会のない方と話す機会ができ、勉強になりました。また、少しでもプログラミングを出来ることが自分の強みにもなったと思います。



大学生メンター
関西大学経済学部3年

澤野 ころろさん

私はボランティア活動に対する漠然とした憧れから活動に参加することを決めました。活動を始めて痛感したのが、自己理解の浅さと言語化力の低さでした。活動を始めた当初はうまく自分の意見を伝えられずもどかしく感じることも多かったですが、チームへの安心感からとにかく自分の意見を言葉にしてみようというスタンスに変わることができました。意見を出し合うと根拠やこの言葉をどんな風に捉えているのかを聞きあう場面が自然と発生するため、自己理解も深まりました。他のメンターから刺激を受けたり、フィードバックをもらってアクションを修正したりと、普通の大学生活では得られない貴重な成長の機会が多くありました。

Collaborators



スクールソーシャルワーカー
(大阪府教育庁所属)

小倉 歩さん

完全無料のプログラミング教育を通して問題解決能力やコミュニケーション力を楽しみながら伸ばしていけることが素晴らしいとあって、いつも生徒達におすすめています。何度か最終発表の場に参加させて頂きましたが、生徒がとても楽しんでいることがよく分かりましたし、自信满满でプレゼンしている姿はとても頼もしく、見ていて嬉しくなりました。協力して高校内で放課後カフェも開催していますが、生徒達はもちろんのこと先生方にも好評ですし、私にとってもなくてはならない大切な場所となっています。CLACKの活躍の場がこれからもどんどん広がって、自分の好きなことを強みに変えられる幸せな高校生がどんどん増えていったら素敵だなと思います。応援しています！！



株式会社ヨドウェア
代表取締役

西田 琢也さん

プログラミングを教えるということ、単なる講座として行うのではなく、困難を抱える子どもたちの未来を広げることに繋がっているCLACKの活動に共感し、2018年より支援しています。子どもたちがCLACKの活動を通じて、プログラミングを初めとした新しい物事へ挑戦する機会を得て、幅広い世界の人々を知ることが、将来に希望と自信を持つきっかけになるものと思います。本当に必要な所に届くよう、地元の学校から全国の団体・企業まで幅広く連携して活動しておられ、その実績にも感服しています。これからもCLACKの活動がより多くの可能性を届けられるよう、応援しています。



リタワークス株式会社
代表取締役

佐藤 正隆さん

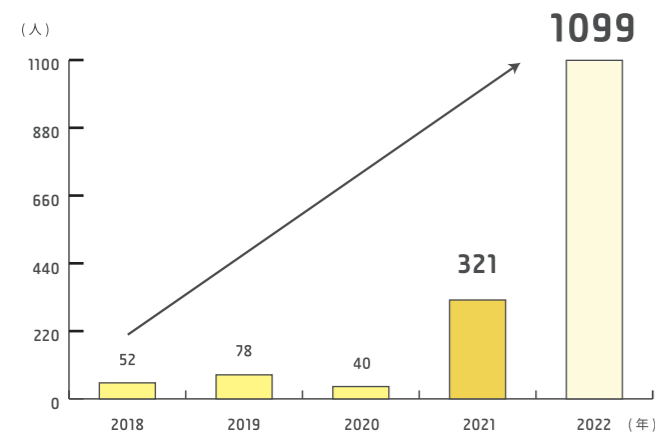
CLACKさんは立ち上げ当初から応援しており、わずかですが継続的に支援を続けています。当社もWEB関係の事業を展開しており、専門学校等から新卒採用をしています。1社で採用する人数も限られていますし、残念ながら離職される若者もいます。より多くの若者がCLACKでサポートされることで、将来の選択肢も増えてほしいですし、そういった若者の第三の居場所として不安や不条理の解消を進めていただければ期待しています。育った環境で差が出てしまうのではなく、分け隔てなくプログラミング等に触れることで、将来の担い手づくりに繋がると信じています。これからも応援しています！

数字からみる CLACK

Achievements in FY2021 by the Numbers

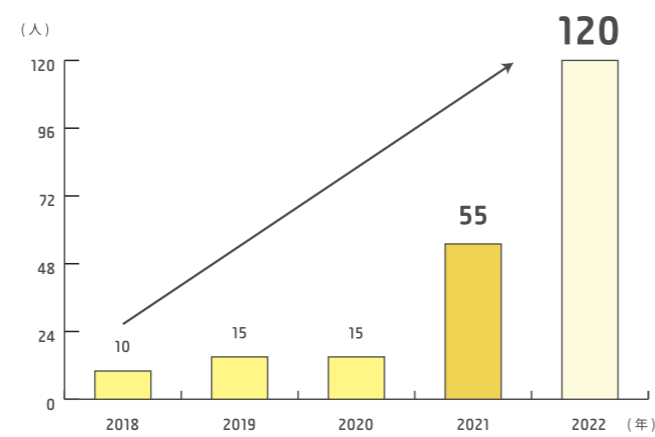
体験会参加者

体験会チームの発足と大人数でできる出張体験会の実施により届けられる高校生の数が増えました。



Tech Runway参加者

各期平均 15 人で年間 3 期を回せる運営体制ができ、かつ拠点増加にも対応可能な体制をつくることができました。



そのほかの数字

Tech Runway Camp

62人

Tech Runway+

20人

PC 寄贈数

176台

コードトレイル

51人

社会的インパクト評価

CLACK では Tech Runway 参加前後の高校生に対し、同じアンケートをとって前後でどんな変容があったかを測定しています。特に「むずかしい課題にもあきらめずに取り組むことができる」「自分の将来について肯定的に感じる」の項目に関しては統計的にも有意な変化が出ているという結果が出ました。また、学校の勉強にも関しても Tech Runway に参加することで学習時間が向上しています。

表1 Tech Runway 参加者へのアンケート結果 (計 52 名)

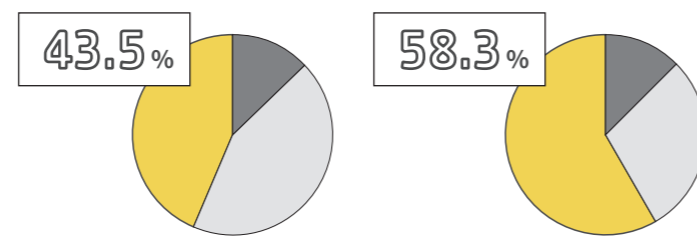
| 設問 | 事前平均 | 事前平均 |
|--|------|------|
| むずかしい課題にもあきらめずに取り組むことができる | 3.1 | 3.4 |
| 自分の将来について肯定的に感じる | 2.7 | 3.0 |
| 自分は少なくとも他の人と同くらい価値のある人間だと感じる | 2.7 | 2.9 |
| 自分の長所や短所を言葉にすることができる | 2.7 | 3.0 |
| 誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける | 3.0 | 3.2 |

※アンケートの回答を 1-4 の 4 段階とし、4 が最もプラスの状態

表2 家庭での週の学習時間の変化

Tech Runway に参加した生徒のうち、家庭での学習時間が向上した生徒

Tech Runway に参加した生徒のうち、家庭での週のプログラミング学習時間が向上した生徒



※Tech Runway に参加する前と後の学習時間の変化をヒアリングした結果です。

NEWS

2022 年度の取り組み

2022 年度は新しい職員も増え、より質の高い支援を、より多くの困難を抱える高校生に、継続的に届けていくことに力を入れていきます。そして、CLACK の支援に参加した高校生が自走するための力をしっかりとつけていけるように、Tech Runway + を通じた IT 企業でのインターン・アルバイト機会の提供にもより一層力を入れていきます。

大学の研究室と組んだ事業評価 01

CLACK では Tech Runway (3 ヶ月) 参加前後の高校生の変化をアンケート形式で取得し比較しています。この事業評価に子どもの貧困問題を専門とする大学の研究室に加わって頂くことで、より信頼性の高い効果測定が行えるようになりました。プログラミングスキル習得による中長期的な高校生の能力の変容 (自己肯定感、関係性構築、問題解決能力等) を測定し、エビデンスとして蓄積して支援の改善と政策提言に用いていきます。



東京 五反田に新拠点オープン 02

Tech Runway の 3 拠点目として、9 月に五反田に拠点を開設します。大阪だけでなく、東京の経済的に困難を抱える高校生に無料のプログラミング教育支援とキャリア支援を提供していきます。その際、現地で活躍する NPO としっかり連携し、困難を抱える高校生にアプローチしていきます。より多くの企業の方を巻き込むと同時に大都市圏で Tech Runway のモデルを広げる足掛かりとしていきます。



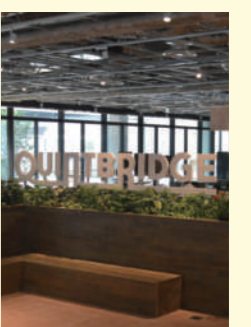
新大阪・堺で Tech Runway 3 ターム開催 03

既存拠点の新大阪・堺拠点では、3 ヶ月間の Tech Runway を春、秋、冬の 3 タームずつ開催します。各ターム 15 名の高校生に支援を提供。また、高校の夏休みと春休みには、5 日間の集中プログラミング教室 Tech Runway Camp を開催し、1 タームあたり 15 名の高校生を受け入れる予定です。既存コンテンツの見直しを行い、きめ細かい支援を届けられるように整備していきます。



Tech Runway + 京橋拠点「QUINTBRIDGE」にオープン 04

Tech Runway 修了生向け Tech Runway + の新たな活動拠点が、新大阪教室と堺教室の中間にある京橋の「QUINTBRIDGE」にオープンします。「QUINTBRIDGE」は NTT 西日本が運営する最大 400 人収容のコワーキングスペースで、CLACK とも親和性が高いことから毎週土曜日に拠点として使わせていただきます。大阪の IT 企業とも連携しながら、高校生の間からインターンやアルバイトをする機会をつくって行きます。



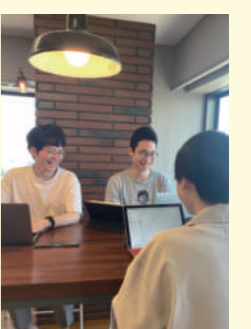
オンラインプログラミング家庭教師事業「チリツモ」 05

発達障害や不登校といった困難を抱える中高生を対象としたオンラインでのプログラミング家庭教師事業の「チリツモ」を 2022 年度に立ち上げました。経済的に困難を抱える高校生を対象に無償の機会を提供していく中で、お金はあるけれど発達障害や不登校のため集団での参加が難しく個別対応を希望するお問い合わせが増え、新規事業の立ち上げに至りました。



メンバーが増えています！ 06

拠点と事業の拡大に伴い、CLACK に関わるメンバーも増加し、フルタイムのメンバーも 7 月には 6 人となります。それに伴い、組織コンサルのプロボノの方にも協力してもらいながら、組織図と組織のあり方を整備して行っています。フルタイム職員からボランティアのメンバーまでそれぞれが生徒のために全力を注ぎながらも楽しみながら CLACK に関わるように日々工夫しています。



Our Partners

パートナー企業のみなさま

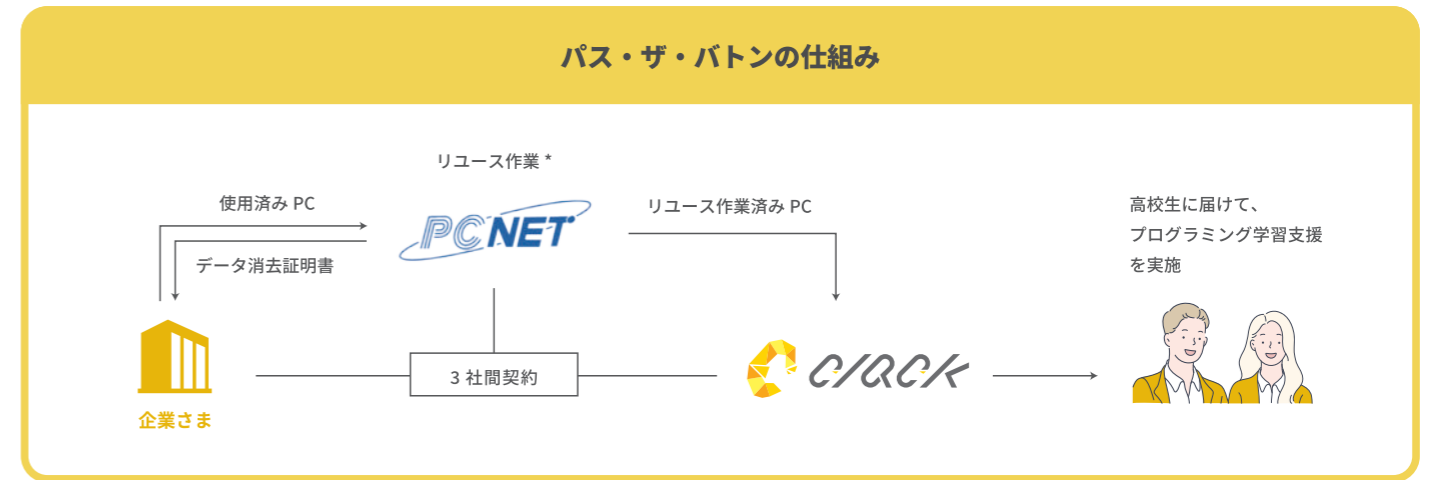
日頃よりご支援をいただいている皆様に厚く御礼申し上げます。本年度も多くの企業・団体さま、個人の皆様よりご支援いただきました。パートナー企業さまには、寄付のほか、PC・教材寄付やキャリア教育へのご登壇等、様々な形で事業を支えていただいております。今後も皆様とともに、高校生にプログラミングの力で未来への希望とワクワクを届けていきたいと思っております。



Pass the Baton

パス・ザ・バトン

「Pass the Baton」は、経済的事情によりPCを買うことが出来ない高校生に、企業から無償で譲り受けた「使用済PC」に情報漏えいを防ぐデータ消去を施し、クリーニングやOSの再インストールを行ったうえで「リユースPC」として届けるプロジェクトです。データ消去は株式会社パシフィックネットのご協力のもと実施。基本的なPC寄贈に当たり必要な作業はパシフィックネット社、CLACKにて実施させていただくため、ご負担なく寄贈いただけます。



* 再利用できないPCも物理破壊で消去

Join Us!

CLACKでは、活動を応援して下さる方を募集しています！協力の方法は以下の通りです。

広める



高校生の現状やCLACKの活動について、SNSを通じて発信しています。少しでも多くの方に困難を抱える高校生の存在を知っていただき、彼らに必要な支援が届くよう、CLACKの発信を友人・知人に広めていただけますと幸いです。

寄付 / 寄贈する



CLACKの活動は、ご寄付やご寄贈に支えられています。例えば、月額1,000円のご寄付は、キャリア教育1回分の会場費と講師交通費になります。あなたのご支援が、多くの高校生に安定してプログラミング学習・キャリア教育の機会を届ける力になります。

メンバーになる



CLACKメンバーには主に「大学生・社会人メンバー」「ボランティア採用」「広報」「居場所カフェ担当」の4つの役割があります。あなたの経験や専門性を活かして、将来に向かって歩を進める高校生たちに伴走していきましょう。

follow CLACK on SNS



support CLACK with donation

下記URLもしくは、右のQRより寄付ページをご覧ください。
<https://clack.ne.jp/donation>



contact with CLACK

下記URLもしくは、右のQRより採用ページをご覧ください。
<https://clack.ne.jp/member>



PC 寄贈の流れ

寄贈決定

CLACKより以下3点を確認いたします。

- ・PC寄贈台数
- ・PC寄贈時期
- ・広報方法

契約締結

パシフィックネット社を含む3社間で契約締結。PC回収方法を決定。

* 貴社セキュリティ規定上の留意点などをご共有。

リユース処理

パシフィックネット社指定センターへの送付または同社による回収。

PC 受け渡し

パシフィックネット社でのリユース作業後、同社よりCLACKがPCを受領します。

広報活動

PC寄贈の活動を両社にてPRします。

- ・CLACKのHP掲載
- ・各SNSでの広報活動
- ・貴社媒体での発信

パートナー企業の声



(株)パシフィックネット
代表取締役社長
上田 満弘 氏

CLACKさんとは、当社からのPC寄贈をきっかけに交流が始まりました。「もっと当社で貢献できることはないか」と考えた時にPass the Batonへの協力でした。2021年2月から始まった本取組みは、徐々に寄贈元企業様への認知も高まっていると感じています。これもCLACKさんの努力の成果だと実感します。本取組みでより多くの高校生が、将来大きく羽ばたけるように、今後ともご支援をしていきたいと思っております。

パートナー企業・後援

PCを寄贈頂いた企業



後援



Organization

団体情報

Staff



事務局長 兼 理事
中川 公貴

立命館大学 理工学部卒業後、新卒で株式会社 NTT データへ入社。インフラエンジニアとして3年間従事。大企業向けの共通基盤構築の要件定義→運用までの業務を担当。フリーランスを経て、2020年11月より CLACK に入社。



事業統括部長
井上 泰孝

2013年から3年間、認定 NPO 法人 Teach For Japan、NPO 法人 Learning for All のエリアマネージャーとしてボランティアの採用、研修開発、教室運営体制構築や組織づくりなどの運営管理に従事。2016年10月に NPO 法人 Crèche を設立。2021年4月に事業統括部長として CLACK に入社。



TechRunway 事業部
関東マネージャー
前田 勝紀

福井高専 生産システム工学専攻卒業。新卒から2年間、プログラマーとして企業のシステム開発などを担当。その後フリーランスとして、Web システム開発やプロジェクトマネージャーに従事。2022年4月より CLACK に入社。



TechRunway 事業部
関西マネージャー
及川 陽太

京都大学大学院 人間・環境学研究科修了。NTT ラーニングシステムズ株式会社にて SE 向け研修の営業企画に携わる。2020年3月よりキャリア教育担当のボランティアとして CLACK に従事。個別指導塾での講師・校舎長を経て、2022年7月 CLACK に入社。



教材開発部長
森川 悟

株式会社インフラトップでプログラミングスクール大手である DMM WEB キャンプのプログラミング教材開発責任者として4年間従事。2022年1月より教材開発兼講師研修責任者として CLACK に従事開始。



TechRunway 事業部
事業評価マネージャー
古池 香里

東京大学大学院 情報理工学系研究科修了。2018年4月ダイキン工業株式会社に入社しデータ分析エンジニアとして従事。プログラミング講師兼事務局として2019年より CLACK に従事。

理事長・平井より

みなさま、ここまで読んでいただきありがとうございます。CLACK 理事長の平井です。2021年度は2拠点目となる堺拠点の開設、Tech Runway Camp の初実施、3人目のフルタイムとなる職員の加入など活動の幅を着実に広げることができました。これも CLACK に関わってくださっているみなさん1人ひとりのお力添えのおかげです。本当にありがとうございます。これからも CLACK として1人ひとりの困難を抱える高校生に対して、「人生のターニングポイント」となるきっかけを届けていきたいと思っています。そして、新たに掲げた「日本中の困難を抱える高校生にプログラミングによる自走支援を」というミッションの達成に向けチーム CLACK で粛々と歩みを進めていきます。今後ともみなさま CLACK をどうぞよろしくお願い致します。

CLACK 理事長
平井 大輝



シチズン賞、受賞しました！



CLACK 理事長 平井大輝が、市民社会に感動を与えた良き市民を顕彰する「2021年度シチズン・オブ・ザ・イヤー」(シチズン時計株式会社主催)を受賞し、2022年1月27日(木)に表彰式が行われました。選考委員からは、「今後ますます重要性が増す『プログラミング』に着目したのは、(中略)実用性があり素晴らしい。持続的な活動を実現するための組織づくりもしっかりしている。」とご評価いただきました。

メディア掲載



TechCrunch (テッククラunch)
2021年10月21日



読売新聞
2021年8月29日(朝刊)

沿革

- 2018.06 任意団体として活動開始
- 2018.10 新大阪拠点設立
新大阪 Tech Runway 第1期開催
- 2019.03 NPO 法人化
- 2020.04 テック GIFT クラウドファディング実施
- 2021.11 堺拠点設立
堺 Tech Runway 第1期開催

加盟団体

- Sustainable Innovation Lab 公益資本主義推進協議会
- シェアリングエコノミー協会 さかい SDGs 推進プラットフォーム
- 新公益連盟



大阪市淀川区西中島 3-8-15
EPO 新大阪ビルディング 1001

info@clack.ne.jp
<https://clack.ne.jp>
[@npo_clack](https://www.facebook.com/clackpc)
www.facebook.com/clackpc

| | |
|-------|---|
| 理事 | 平井 大輝 / 中川 公貴 / 鍋嶋 亜佐伽 |
| 監事 | 持井 大樹 |
| スタッフ | 中川 公貴 / 井上 泰孝 / 前田 勝紀 / 及川 陽太 森川 悟 / 古池 香里 |
| 顧問弁護士 | 三村 雅一 |
| 顧問税理士 | 鳥野 税理士事務所 |
| デザイン | syusyu (ホームページデザインほか) 野村 美公 (年次報告書デザイン) |

2021年度 活動計算書

| 科目 | 金額 | | |
|-------------------|------------|------------|------------|
| I. 経常収益 | | | |
| 1. 受取会費 | 0 | 0 | |
| 2. 受取寄附金 | 9,340,970 | 9,340,970 | |
| 3. 受取助成金 | 8,870,000 | 8,870,000 | |
| 4. 事業収益 | 10,097,560 | 10,097,560 | |
| 5. その他収益 | | | |
| 受取利息 | 76 | | |
| 雑収入 | 1,037,448 | 1,037,524 | |
| 経常収益計 | | | 29,346,054 |
| II. 経常費用 | | | |
| 1. 事業費 | | | |
| (1) 人件費 | | | |
| 役員報酬・給料手当 | 8,020,000 | | |
| 法定福利費 | 1,200,342 | | |
| 人件費計 | 9,220,342 | | |
| (2) その他経費 | | | |
| 旅費交通費 | 2,159,033 | | |
| 外注費 | 5,506,289 | | |
| 採用教育費 | 100,972 | | |
| 広告宣伝費 | 184,621 | | |
| 通信費 | 909,234 | | |
| 消耗品費 | 573,054 | | |
| 教材費 | 743,205 | | |
| PC リソース費 | 710,490 | | |
| 賃借料 | 175,823 | | |
| 地代家賃 | 1,425,141 | | |
| 租税公課 | 2,000 | | |
| 支払手数料 | 80,718 | | |
| 減価償却費 | 1,234,687 | | |
| その他経費計 | 13,805,267 | | |
| 事業費計 | | | 23,025,609 |
| 2. 管理費 | | | |
| (1) 人件費 | | | |
| 役員報酬・給料手当 | 600,000 | | |
| 法定福利費 | 80,033 | | |
| 福利厚生費 | 23,139 | | |
| 人件費計 | 703,172 | | |
| (2) その他経費 | | | |
| 旅費交通費 | 45,844 | | |
| 外注費 | 576,500 | | |
| 採用教育費 | 176,870 | | |
| 広告宣伝費 | 97,281 | | |
| 通信費 | 203,649 | | |
| 消耗品費 | 16,748 | | |
| 地代家賃 | 356,286 | | |
| 租税公課 | 2,752 | | |
| 諸会費 | 722,100 | | |
| 支払手数料 | 115,134 | | |
| 支払報酬料 | 1,331,000 | | |
| 支払利息 | 15,892 | | |
| その他経費計 | 3,660,056 | | |
| 管理費計 | | | 4,363,228 |
| 経常費用計 | | | 27,388,837 |
| 当期経常増減額 | | | 1,957,217 |
| III. 経常外収益 | | | |
| 経常外収益計 | | | 0 |
| IV. 経常外費用 | | | |
| 経常外費用計 | | | 0 |
| 税引前当期正味財産増減額 | | | 1,957,217 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | | 70,000 |
| 当期正味財産増減額 | | | 1,887,217 |
| 前期繰越正味財産 | | | 202,034 |
| 次期繰越正味財産 | | | 2,089,251 |